

令和5年12月12日
大阪府立西浦支援学校

令和5年度 学校教育自己診断アンケート（報告）

【保護者アンケートの方式について】

アンケート方式 Web 入力フォーム

設 問 数 26 問

設問カテゴリー ○子ども・保護者の支援に関すること

○教育活動に関すること

○学校運営に関すること

回 答 方 法 A：よくあてはまる B：ややあてはまる
C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない
E：わからない

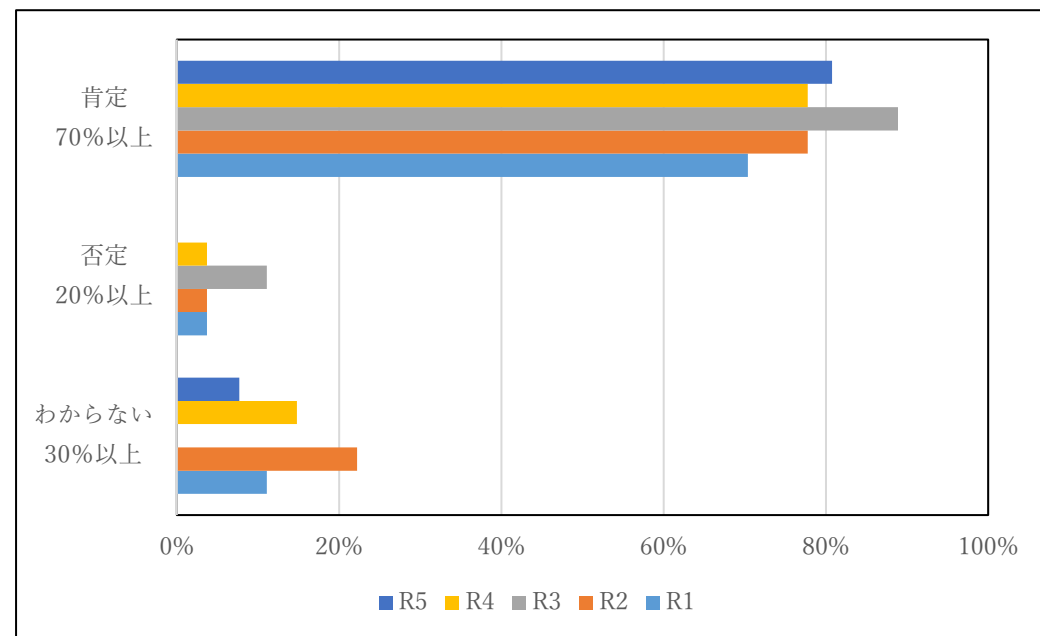
分 析 方 法 A/B：肯定的意見 C/D：否定的意見 E：わからない

【回答率と回答傾向について】

本調査は令和5年10月25日から10月31日の期間に実施し、保護者からの回答率はおよそ33%でした。昨年度の回答率は35%でしたので、わずかに下がったことになります。

昨年度に比べ、「わからない」という回答が多くの設問において減少しました。課外クラブの参加状況に関する設問は課外クラブに参加している家庭のみが回答できるようフォームを変更したこと、今年度の西浦支援学校の取組みの進捗状況をまとめて参考資料として保護者に示した効果によるものと考えられます。

【意見の分布について】



【肯定的意見について】

全項目における肯定的意見の割合が70%以上の設問は全26問中21問と全設問の81%で、昨年度に比べ3ポイント上昇しました。肯定的意見の割合が昨年度に比べて10ポイント以上上昇した設問が3つありましたが、いずれの設問も否定的意見は大きく減少しておらず、本校の取組みを評価していただいたわけではなく、『西浦支援学校の取組みの進捗状況』の提示により「わからない」が減少した結果だと考えられます。肯定的意見の割合が70%未満の設問内容については、今後も重点的に取り組んでまいります。

【否定的意見について】

全項目における否定的意見の割合が20%以上の設問は今年度0問、昨年度1問、一昨年度3問と改善傾向が続いています。ただし否定的意見の割合が10%以上の設問が複数あり、今後も教育相談や学校外交流を充実させ、保護者にその取組みを広く知っていただく機会を設けます。

【「わからない」について】

『西浦支援学校の取組みの進捗状況』の提示により、多くの設問で「わからない」が減少しましたが、「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」のみ、いまだに30%を超えています。「いじめについて困ったことがないのでわからない」という意見だと捉えることもできますが、本校のいじめ対策について深く知っていただく取組みを進める必要があります。個人情報に関わるため、いじめ事象に関することは『西浦支援学校の取組みの進捗状況』に掲載することができませんので、日頃のいじめ対策の取組みを発信し、安心して登校できる学校づくりを進めてまいります。

【子ども・保護者の支援に関する項目について】

「学校は、担任の先生以外にも気軽に相談できる場所を設けている」は昨年度より肯定的意見が増加しています。『西浦支援学校の取組みの進捗状況』の中で、担任等への相談のほかに臨床心理士相談や心の健康相談といった専門家に相談する機会があることをお知らせしたことで、肯定的な意見が増加したと考えられます。すでに臨床心理士相談、心の健康相談ともに多くの方にご利用いただいておりますが、より気軽に相談することができるよう、保護者に向けて情報発信等の工夫をしてまいります。

【教育活動に関する項目について】

「学校は、子どもがほかの学校の子どもたちと交流する機会を設けている」については、肯定的意見の割合が昨年度より17ポイント増加したものの、依然として60%を割り込んでいる状況です。新型コロナウイルス感染症対策として直接の交流を控えてきましたが、今後は様々な形で地域の小学校、中学校、高等学校との交流を積極的に企画、実施してまいります。

本校ではICT機器を授業に活用する取組みを進め、ほとんどの授業でICT機器が導入されてきています。そのため、今後は効果的にICT機器を活用できるようにと「学校は、タブレット型端末などのICT機器を効果的に活用している」という設問を新設しました。今年度は肯定的意見の割合が74%であり、十分とはいえない結果でしたので、継続して研修などで教員のICT機器の活用能力を高め、効果的な活用を促進してまいります。

【学校運営に関する項目について】

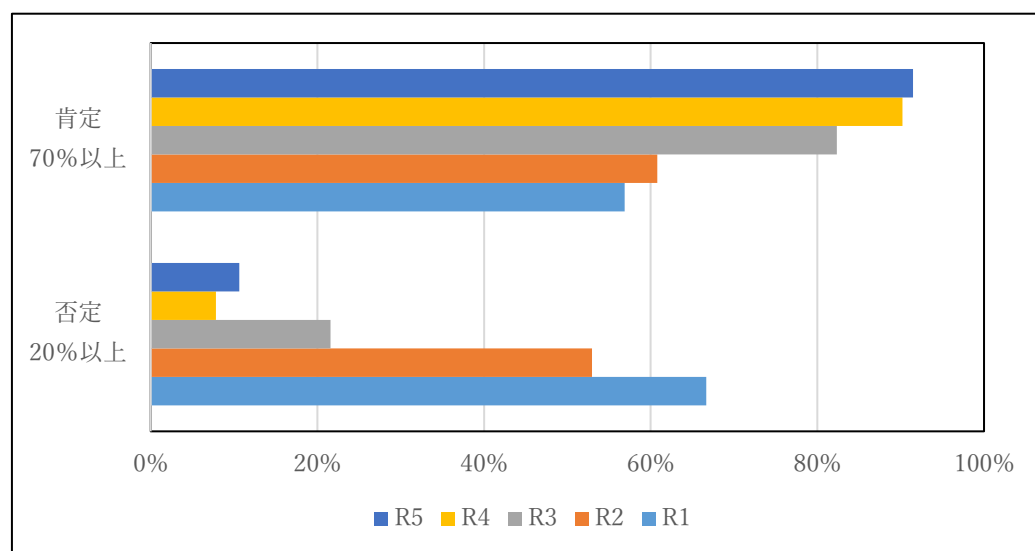
昨年度と同様に、1項目を除いてすべての項目で肯定的な意見が80%以上であり、良好な結果でした。しかし、「学校は、保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を持っている」の項目については、肯定的意見の割合が69%と高くありませんでした。学校教育自己診断を含め、保護者にアンケートでご意見をいただいたり、学校運営協議会で地域の方々から助言をいただいたりしておりますが、十分ではないと受け止めております。学校教育自己診断の回答率もおよそ3人に1人と低いことから、保護者のご意見をいかに受け止めていくのか、学校として検討してまいります。

【教職員の回答について】

「施設・設備の点検を定期的に行い、適切に管理している」で、大幅に肯定的意見が増加しました。開校して8年が経過し、施設・設備に経年による劣化が見られますが、教員・事務職員・技術職員で協力して点検・修理を実施しています。また定期的に学校内・周辺を点検してセアカゴケグモを発見・駆除したり、危険箇所を見つけてケガを未然に防いだりする取組みを続けており、その成果の表れだと考えられます。

「自立活動の指導に当たり、児童生徒が興味をもって主体的に取り組めるよう工夫している」では、昨年度より否定的意見が11ポイント悪化しました。自立活動は特別支援教育の根幹をなす教育活動ですので、この否定的意見の増加の真意を見極め、自立活動を充実させていく必要があると考えられます。

また「児童生徒1人1台端末などのICT機器を効果的に活用している」の設問では、昨年度より肯定的意見が13ポイント減少しました。設問に【効果的に】という文言を追加したことで、肯定的意見が減少したと考えられます。今後はICT機器をいかに効果的に活用するかが重要となるため、この学校教育自己診断の結果をICT機器の活用について考えるきっかけにしたいと考えます。



【全体考察】

保護者アンケートについては、昨年度に多くの設問で肯定的意見の割合が過去最高だったこともあり、いくつかの設問では肯定的意見の減少が見られましたが、全体としては良い結果でした。ただし、回答率がおよそ33%と依然として低く、保護者の皆様のご意見を集め切れていないと考えています。学校教育自己診断の実施形態も含めて、検討してまいります。